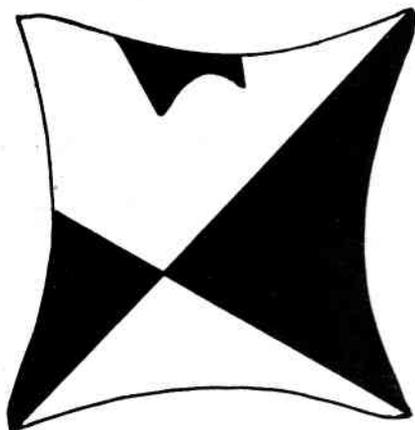


No. 60 1979. 11. 10 発行



北海道造形教育連盟

○第29回全道造形教育大会、旭川大会に想う

○ゆとりある子どもを育てる図工美術教育のあり方

-旭川大会からの報告-
・幼、小、中、高各部会

○事務局だより

事務局 〒062 札幌市豊平区西岡5の18

札幌市立南月寒小学校 ☎ 853-9314

第29回 全道造形教育研究大会 旭川大会に想う

北海道造形教育連盟委員長 辻 悦平

由緒ある彫刻の街旭川市で第29回全道造形教育研究大会が開催され、その大会が盛會に終了できましたことを心から嬉しく思います。

造形教育のあり方は、そのまま人間の生き方に連なるものであることを大会誌のご挨拶でのべましたが、この大会で旭川の皆さんの熱意と誠意をハダで感じ、人間の心のあたたかさを再び深く認識することもできました。いろいろお世話いただき又ご援助、激励下さった多くの方々に謝意と敬意を表したいと思います。

このような心のある限り 子どもの造形の芽、創造の芽はたくましく育ち自分の力で生活を切り開いていける判断力と実践力のある望ましい心を持った人間が育っていくものと信じます。

全道からお集りくださった熱心な会員の方々にも又深く御礼を申しあげたいと思います。ご参會の皆さんの熱意で、この大会をより実のあるものにもり上げて戴きました。

過去2回の旭川大会がそうであったように、この29回旭川大会も極めて大切な時期に開催された意義深い大会であったと思います。

講師福田先生のお話も、その実践から生まれたユニークですばらしいものであり、人間の生き方、ものの考え方を原点から見つめなおす実のあるものとして、参會者一同深い感銘を覚えました。

このことも旭川の皆さんの、すぐれた企画の一つであったと思います。

一堂に集められた彫刻、街並みにある彫刻、いろいろな意味を含めて地元の方々のご苦勞がしのばれる大会でもありました。養口先生の入院は私達の心をいためたことの一つでした。ご全快を心から祈りたいと思います。

高度成長の時代は終り私達の生活も、もう一度考えなおす時代にきたのでしょうか。又人間の生き方そのものも見つめなおしてみる時にきているのでしょうか。その気持ちは分かり、心は分かるようでも自分自身のことになるとなかなか難かしいものですね。私が歳をとりすぎていて過去の生き方や、考え方が身にしみついてしまったためなののでしょうか……。近頃、自分自身のことについて考え

させられることが多くなりました。でも心をあらたにしながら毎日を一生けん命に生きたいと努力しています。

一生けん命生きるためには自分なりの夢を持たなければなりません。自分なりの考え方をしっかり持たなければなりません。それはグラグラゆれ動いているものばかりでは問題になりません。そんなことを今更のように自分自身に言い聞かせているこの数年です。

何よりも自分自身がよく分り、自分自身が納得することが大切なのでしょう。理くつだけではありませんね。自分自身が進まなければならぬ道なのですから……。だから造形教育のあり方は人間の生き方そのものでなければならぬとの感がより深くなったのかも知れません。そうでなければこのことに心を打ち込むことはできませんし、また、そうあるべきだと思うのです。

とにかく夢を持って努力しましょう。小さな夢でもいいではありませんか、その夢がダメだったら又新しい夢を持ちましょう。そうして一生夢を持ち続けましょう。それが生き甲斐であり、夢実現のための努力が意欲が人間の生き方をきめると思います。だから夢は大切なのです。ただその夢は決して他人に迷惑をかけるものであつはなりません。このことを含めて教育と言うのだと思います。

心を育てる造形教育を皆さんの力でもっともっと浸透させなければなりません。そのことが教育のすべてだとも思います。

旭川大会に想いをいたし感じたままのべさせていただきました。

来年は造形教育連盟創立30周年の年にあたります。本部では30年史に併せて研究紀要発刊の仕事と研究が連日開催されております。

又、北海道教育美術展の企画も例年のように進められております。さらに、造形教育に関連ある社会的事業や、仲間の研修事業にも積極的な協力努力をしております。全道各地の意欲ある実践も進められております。

北海道の実践が全国的にも注目されていることは嬉しいことです。

私達の仲間に垣根はありません。もしそんなものを感じたら、皆さんの力ではらいのけて進みましょう。全道の皆さん益々お元気です……。

(旭川の皆さんと参会者の皆さんに心から敬意を表して……)。

ゆとりある子どもを育てる

図工・美術教育のあり方

第29回全道造形教育 旭川 大会

ごあいさつ

運営副委員長 小 田 榮 作

旭川大会の開催にさいし 全道各地から参加された会員の皆様はじめ、大会を後援しご指導をいただいた北海道教育委員会、上川教育局、旭川市教育委員会に対し深甚の敬意をあらわしたいと存じますと共に、北海道造形教育連盟の辻悦平委員長はじめ 本部委員の先生方に多くのご支援、ご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。

この大会を終えて考えますに 萩原常良実行委員長、中西清治事務局長を中心とする 130 名が、創意工夫による大会運営と一糸乱れぬ組織のもとで「授業で勝負」という気迫でせまり、盛会に終了できましたことは喜びです。

さて、旭川大会の特色として幼、小、中、高の「旭川子ども作品展」を開催したこと。希望ある都市づくりの一環として、街の彫刻を教材として活用し 生徒が「中原悌二郎の作品」にふれることができたこと。これらは、市当局の大きな尽力によるものです。また、絵画、鑑賞グループの教師が 中学生のための「彫刻さんぽ」のパンフレットを教材として作りあげ、即教育活動に活用されたのも 特色の一つです。

新指導要領の実施を明年に控え「創造的な表現制作の喜びを一層深く……。」小学校低学年では「より総合的な造形活動が……。」をとらえ 授業や提言を通し、教師の創意工夫をもつことに ねがいや方向を提示、研究できたことと思います。さらには、記念講談の「福田繁雄氏のデザインに対するユニークな発想は、心理学、建築学などの広い分野にまたがった内容でありよい示しであった」と思います。

この大会を終えて つくづく想うことは、多くの方々の善意に満ち満ちておこなわれたということです。ここに深く深く皆々様に感謝申し上げるのみです。

旭川大会分科会報告

旭川市立愛宕小学校

原 良 三

相互に磨きあい……………
創意と工夫で充実した……………
多面的に視点のずえることのできる
新しくしかも古いとさえ思える……
問題の多くふくんだ話しあい……………
その報告をいたします。

△ 幼稚園部会 ……

「新しい教材とのふれあい。」

三歳児の指導で、フィンガーペインティング、クレヨンと絵の具の併用遊びなど、初めての集団生活の造形活動でも 積極的であり遊びを知らぬほど 全身を使い ものにぶつかって覚えていく姿がみられた。

教師には、研究心 勉強する姿勢が大切であり、現場での研修を 大いにおこなうべきである。

「ゆとりある活動」

生き生きとした子どもを育てるために必要なことが ゆとりある 活動である。一日の枠組をおもいきってはずすのも 一方法ではなからうか。しかし、ねらいにより、保育形態を考慮したり 遊びから きまりあるものへ育てていくことも 大切である。

「絵の指導は、豊かに感ずる心を育てることである。親と子、子どもと、子どもの暖かい人間関係、絵や音楽などの良い内容のものに触れさせたいものでありたい。子どもの絵には、自分自身の体験があらわれるので、ものごとに興味や感心を常にもたせることが、だいじになる。」

「『ゆとり』が よい造形につながる。精神的なゆとりがあってこそ のびのびとした絵が描けるし、時間的なゆとりがあれば 描く過程にもゆとりが持てるのではないか。又、子どもが、熱中し もっと続けたいという欲求が満たされると、あとの活動にも 良い影響をあたえるのではないか。しかし 予定の変更 調整などでは 問題ものこる。」

「幼児の遊びは大切である。遊びを次々に考えていくことが 造形のために 欠くことのできないことである。そのためには いつも人間関係をふくめてのよい環境づくりを 心がけたいものである。」

△ 小学校部会……絵画・版画…

「題材の選定、構図のとり方、子どもの発想を大切にすることの解決には、公式はない。生活を通して 子どもの造形能力を課題とし 進んで発見し、表現して 喜びと興味を深めていきたい。」

「子どもの見る窓口をせまくしていくことにより 造形的な物の見方を育てたい。一日の枠組をはずすのも一方法ではないだろうか。しかし、ねらいにより保育形態を考慮したり、遊びから、きまりあるものへ育てていくことも大切である。」

「生きいきとしたよい絵を描かせるには、子どもの遊びを大切にし、子どものもっているものをできるだけ引き出すように描かせたい。」

「絵は、形を重視すれば 技術的な指導が多くなるだろうし、感動を中心にすれば、色の表現が豊かになる。」

「豊かに感ずる心を育てることが よい絵につながるのであるから、親と子、子と子などの暖かい人間関係や絵や音楽などの良い内容のものに 触れさせたいものである。子どもの絵には 自分の体験が表われるので 興味や関心を持たせることがだいじである。」

「子どもばかりではなく 親にも 望ましい絵や描き方をわからせたい。」

「一つの題材を取り扱うのであっても、他の領域との結びつきが考えられる。たとえば「はだかの王様」という描画の学習にも、クロッキーで人の動き、デザインで色調の学習。クロッキーで人と人の重なり。デザインで、色紙の重ね切りによる人の重なりという手だてもある。」

「教師が教えていくものと 子どもが育つものとの関係で 造形的 技法的視点を どうおさえていったらよいだろうか。」

「一時間の中に 幾つかの造形要素をいれていき、子どもたちが新しいことへの、挑戦ができるようにし 抵抗を克服させていくようにすることも 大切であり、そこに学習がある。」

「題材は、子どもたちがやってみたいというものにすべきではないか。中学年では、題材名で狭めてもいいが、高学年では意欲をおしつけてしまうことになることも考えられる。視点は与えるのはいいが、ぎゃくに発想の妨げになることも考えられる。」

「完成されたものでなくてもいいという考え方もある。作品を展示してやることによって 作品を大切にすることが育つのではないか。結論めいたものは出ないが、各地域で、実践して欲しい。」

「子どもの発達段階から考えて 教師は、子どもの見えるもの、思ったことを的確に描ける力をつけてやりたい。この上にたって、基本のおさえなどいろいろ考えられる。

◦教師に対する手だて

- ・カリキュラムの作りなおし（各学年同じ領域を同じ時期に扱うなど）
- ・作品を職員室に持ちこみ、平易な話しからはじめて啓蒙する。
- ・学校行事の場での発表、展示をする。

◦子どもに対する手だて

- ・たての系統を大切にすること。
- ・気持ちを集中させるように育てる。
- ・作品を大切にすることが育てる。
- ・意欲をどう造形活動に生かすか。



・伊藤恵先生の「紙の造形」



・幼児の全身を使った遊び

△ 小学校部会……デザイン……

「学校生活の中に 子どもの自由な表現の場面をもっと とりいれたい。」

「デザイン学習が 他の領域（特活など）他教科などとかわりあって 子どもたちの学校生活がより楽しいものになるように考えていきたい。」

「生活と結びつけていく学習の計画のもっていき方や 課題や用具の与え方についての研究を深めたい。」

「題材には 父母の生活からヒントや話しあいの展開のもたれるものや、子どもと深くかかわって交流のもてるものをさがしてみよう。」

「子どものくらしの見直しについ

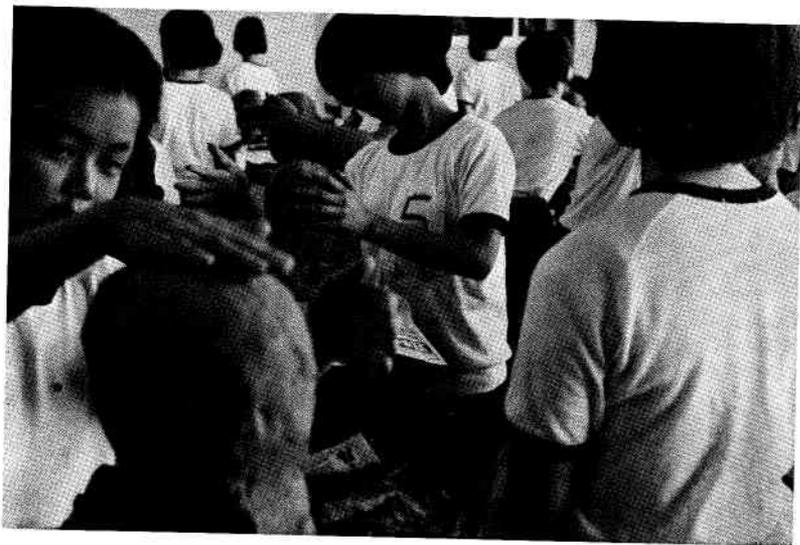
て（地域の実態調査、方法、分類）」

「基礎的、基本のおさえを 授業の中でどうおさえて指導しているか。」

（題材えらび、カリキュラム作成、時前指導、技能面の指導など）」

「生活との結びつきと 子どもへのほめことばや自信をつけさせ心を豊かにしてやることの大切さと、子どもの「見る目」を育てるための協力を父母へ啓蒙することが必要である」

「今後、55年度へむけて 各地域のカリキュラムの交流がほしい。」



△小学校部会……工作・造形遊び……

「作品を完成させるのが目的でなく、その過程で主体的に活動させ、造形活動の喜びを味わうことを重視する」

「子どものニーズにあわせた題材設定が必要である。」

「遊びの中から材料にスキンシップ（材料経験・全身運動）するのが最低条件である」

「教師の意図が、型にはまらぬように。また、材料の可能性、発達段階を考えて授業にのぞむようにすることが望ましい。」

「教材を扱う際、考えなければならないことは、材料、用具、技法、発想、情報（転用、代用、応用、開発）という大きな要素についてである。一つの教材の中で、これらのすべての要素をみたすことは無理な場合が多い。だからその際、教師のねらいをはっきりさせ、それに基づいた指導をしなければならない。子どもが豊かに発想させる手だてと、それを実際に制作する上に必要な技術を身につけさせる必要がある。また、材料、用具に関する研究、他のジャンル（絵画、デザインなどとの関連も考慮に入れることがたいせつである。」

「今後の課題として①指導上での教師の視点を明らかにさせること②材料用具の精選と吟味が残された。」

△小学校部会……鑑賞……

「子どもの心を揺さぶり、物を深く見る目を養う指導の方法。造形美、機能美、心情的に感じた美をどう指導するか。表現と鑑賞は表裏一体と考えて指導する。鑑賞指導の中での個人学習とグループ学習のあり方。制作カードの書かせ方が話しあいの中心になった。」

「鑑賞は、作品を通しておこなわれるが、子ども自身の生活と結びつかない美術品をもってきても、子どもには興味のわかない場合が多くなる。自分の作ったものの反省が鑑賞であり、その後続く意欲を養うものである。」

「鑑賞は、教えこんだり気ばってするものでもないと考え。子どもたちの生活を豊かにし、感動する子どもに育っていくように、指導法やカリキュラムなどを考えていく必要がある。」

「教育課程改訂にあわせて 鑑賞の評価、特に指導要録に記載する時の評価はどうしたらよいか。課題として 各地区でとりこんでいく必要がある。」

△中学校部会……彫塑・絵画・鑑賞…

「比較的、良質な粘土を身近に求めることのできる旭川では、子どもたちが、表現要求を満たすのにじゅう分な量を与えることにより のびのびと思いきった表現に結びつけている。さらに 表現活動の段階では、生活をみつめ、生活と自分のかかわりを考え、子ども自からのねがいを持ちながら表現を進めていくことにより、より生き生きとした 表現活動が期待されてきた。くらしをぎりひろくことは、①応用力をつけ くらしに役立てる。②与えるばかりではなく、自分からとり組む。③自分の手を通して 身体を通しての表現。④自分の住んでいる土地からとれる素材を使用する。」

「彫塑領域では、現在いろいろな問題点をかかえながら取りくまれているが学校の設備、素材等 まだまだ研究の余地がある。」

「旭川のように、じっくりと見つめ 掘りさげていくことが 大切である。そのための教師の姿勢、意欲を基盤に カリキュラムの立てなおしをし、子どもたちが 生き生きとした表現活動ができるように 研究を重ねていかなければならない。」

「効果的な鑑賞活動は、より高い表現活動をうながす動機となり 表現活動の高まりは、さらに高い鑑賞力を育てるように、鑑賞と表現とは一体である。そのためにも、本物の作品にふれる機会を多くとりたいものである」

「地域の文化遺産として すばらしい作品など 教材の中にとりいれていくことなどがこれから必要になってくる。」

「自己実現の目標は、子どもが くらしをどのように見つめているのかであり、これは豊かな感受性、よいものを感じる心を育てることによって、養われると考える。」

「美術教育の基礎は『思いやる』ことと、対象をみつめるあたたかさである。

表面にとらわれずに、対象の内部をみつめる あたたかい面の認識が必要。」
「題材の系統性について、このことについては、年間に扱う題材を整理し 関

連する題材を扱っていくと効果的であろう。56年度からの 複合教材としては別領域の系統を考えていくことが必要で、限られた時間の中で効果的にするには 複合してする方が良いのではないだろうか。」

「限られた時間で 私たちは より効果的にやらなければならないが、それは短時間でやればよいというものではなく、作品に対する時 思いめぐらすだけの時間が必要である。」

△ 中 学 校 部 会 ……「工芸・デザイン」…

「工芸について」

- 素材と 素材を生かす制作、加工法、及び費用について。
- 中学生としての工芸での造形性の追求のあり方と民芸性の強い題材での美術教育の立場からの造形性の追求のあり方。
- 古いもののよさを知らせることの大切さ、道具の使い方を教える大切さ。

「デザインについて」

- 制作のプロセスのシステム化と 制作時間と作品の大きさや形、造形性を高める指導の内容との関連。
- ポスターにおける発想については、社会からの要求によって テーマが設定されるのだろうか？ それとも子どもの自発的必然性があるテーマが設定されるのか。
- デザインは全ての要素の含まれる高度な題材で、基本となる色の学習や構成上から素材の知識など、適切な学年の系統性を持たせることが大切。

「今後の課題として①デザイン工芸とも、中学性としての造形性の追求のあり方はどうか。②造形性を高めるために 時間、費用、用具等の制約の中で、どのような系統性を持たせて 3年間の指導をするべきか。③子どもが心から表現したいという意欲をもって取りくめる発想のさせ方は どうあるべきだろうか。

△高等学校部会……

「授業と部活動の関係を考える」

。共に重要であるが 授業は基本的なことに重点が置かれ、部活動は、創作における好きなことをさせる場とおさえるおさえ方がある。実際にはほとんど 油彩画が中心となっており、地域や学校の環境や施設に差があり、生徒の取り組み方や意気ごみに影響を与える。デッサンに関しては、一年時には全く描けない状態が多い。生徒の作品を見ると どこから進学してきたのかわかる程、能力差がはげしい。指導の徹底は必要なのだが、個性を伸ばすむずかしさ 重要性をあらためて認識した。」

「幼、小、中の各学校には 研究の組織が確立されているが、高校では、相互研究の場がじゅう分ではなく、そのため個人的な研究や相談に終わっている。

。そのために地域においても、全道的にも組織化が必要である。」

「生徒の創作活動充実のため 施設設備の充実と、必要性が急務である。」



旭川子ども作品展



幼年部会

本部事務局だより

事務局長 森 川 昭 夫

毎月の行事予定表に 研究誌企画委員会、事業部会、30年誌企画委員会などの会合の時間、会場などが書きこまれるのを見ると、連盟本部の力強い歩みはずしんずしんと感じられる。

本年度 前半のメモ帳から、その主なものを拾い出してみよう。

5月3日 連盟総会 本年度の進め方を、地区委員さんと協議し、決定する。

11日・12日 幼児造形ゼミナール後援 円山ハイツで、課題にとり組む。

20日 朝日写生会共催 北の国に春がきた、背中に暖かい日差し。

6月27日 常任委員会 各部・各係より細かい計画が練られ、検討される。

7月11日 札幌支部 実践発表会。若い人たちの発表に、新鮮さがみなぎる。

27日・28日 全道旭川大会 彫刻のまち旭川。チェック模様には区画された街に続々と仲間が集った。「躍動する北国のひびき……」。たくましい大鼓のリズムが鳴りひびいて旭川大会の幕が上がった。子どもと教師と教材が一緒になって見事な授業が展開され、くらしの中から造形する心を育てる仕事が、分科会で討議された。素晴らしい大会、ありがとう。

30日 連盟第1回ヨーロッパ研修旅行募集開始。来年の苫小牧大会が終わったらすぐ出発、14日間、美術館がいっぱい。スケッチも、55万円也。ローンも。

8月1日・2日・3日 夏休みちびっ子教室（東急）子供の目が新題材に輝く。
第2回北海道幼美の会后援。先生が子どもになって、汗をかく。

17日・18日 幼児教育実技研（市教委）後援

9月1日 日ソ两国児童の交流絵画展 日本の絵200点を送り、ソ連の絵も、200点がやってきて、望ましい絵をほめあう展覧会、楽しい企画。

- 9日 母と子の写生会後援。子どもも頑張ったが、お母さんも頑張った。
- 22日 連盟 札幌支部 裸婦クロッキー会 久し振りに線が走る。
- 25日 常任委員会 系統表の再検討、だんだん全容をあらわしてくる。
- 10月11日・12日 全道連大会・仙台大会 代議員会でも少し活を入れる。
- 16日 空美研・全空知作品を語る会 (砂川)
- 21日 立体造形展審査

編集後記

- 旭川大会を中心におとどけいたします。
- 次号は連盟本部で研究中の指導の構築第四集についての内容と、苫小牧大会の準備のようすをのせたいと思います。

<伏見小タニ>